

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は 2017 年度 IAAF 規則、(公財)日本陸上競技連盟競技規則、WMA 競技規則、(公社)日本マスターズ陸上競技連合競技規則並びに国際・第 38 回全日本マスターズ陸上競技選手権大会競技注意事項により実施する。

2. 競技者の招集について

競技に出場しようとする者(以下「競技者」という)は、競技者招集所において競技役員に出場の手続きをし、点呼を受けなければならない。

- (1) 招集所は、第 4 ゲート(100m スタート)のゲート外のスタンド下通路に設ける。
- (2) 招集時刻は、競技日程に示された競技開始時刻前、下記の時間とする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技 各クラス・各種目	30 分前	20 分前
フィールド競技各クラス・各種目	40 分前	30 分前
フィールド競技 棒高跳	60 分前	50 分前

時間厳守 上記の時間に遅れた者は出場できない。

- (3) ナンバーカード(胸・腰)およびスパイクピンを提示できるよう準備の上、招集所で待機し、点呼を受けること。
- (4) 他の種目に出場している等で、点呼を受けられない特別な場合は事前に招集所の競技役員に申し出ること。
- (5) 招集完了時刻までに所定の手続きをせず、また点呼を受けない競技者は、当該種目を棄権したものとみなして処理する。
- (6) 点呼を終了した競技者は、指定された場所で待機し、競技者係員の誘導に従って競技開始場所に移動すること。
- (7) 棒高跳については、自己申告に基づき競技開始時刻を編成しているので招集所にて確認すること。

3. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは、選手受付時に一人につき 2 枚交付する。
- (2) 競技者は、交付されたナンバーカードをユニホームの胸と背につけ、安全ピンで四隅をとめること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背のいずれかに付けばよい。
- (3) トラック競技に出場する競技者には、招集所で写真判定用の腰ナンバーカードを配布するので、ランニングパンツの右横や後方に貼り付けること。1500m 以上の競技については、腰ナンバーカード 2 枚を左右の腰に貼り付けること。
- (4) 腰ナンバーカードは、シールタイプで返却不要である。

4. 練習会場の使用について

- (1) 練習は指定された場所・時間で行い、事故防止には万全を期す。なお、練習中に発生した疾病や傷害等については、応急処置は主催者において行うが、以降の責任は負わない。
- (2) 会場内への入退場は必ず ID カードを明示する。また、荷物等は、個人が責任をもって管理すること。
- (3) 使用日程は、下記の通りとする。

競技場	場 所	10 月 26 日	10 月 27 日	10 月 28 日	10 月 29 日
本競技場	(トラックのみ)	13:00~16:00	7:00~8:00	7:00~8:00	7:00~8:00
補助競技場	(トラックのみ)	13:00~16:00	7:00~17:00	7:00~18:30	7:00~18:30

※補助競技場では競技が実施されるので練習時間・場所の制限があります。使用にあたっては係員の指示に従

うこと。

5. 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場は、すべての競技者は招集所より競技役員の指示または誘導により行う。
- (2) 退場は、下記による。
 - ① トラック競技
競技役員の指示による。
結果が判明次第(アナウンス及び掲示板の成績結果で確認)1～3位の入賞者は、被表彰者待機所へ移動する。
 - ② フィールド競技
競技役員の指示誘導による。
1～3位の入賞者は競技終了後競技役員の指示により被表彰者待機所へ移動する。

6. レーン順・試技順について

- (1) トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラムの数字で示す。
- (2) フィールド競技で複数のクラスを同時に行う場合は、ナンバーカード順とする。

7. 事故防止について

- (1) 本大会期間中すべての競技者は、競技役員(セーフティジャッジおよびセーフティジャッジ以外の競技役員)から「競技への出場または競技の続行が危険」と判定された場合はその時点で競技出場及び競技続行は出来ない。
- (2) 競技者はセーフティジャッジ及び競技役員の判定に従わなければならない。
- (3) 判定に従わず競技に出場または続行した場合の記録、順位は一切認めない。

8. 競技について

- (1) 競技者の出場する競技種目の変更、追加は一切認めない。
- (2) 年齢に不正があった場合は失格となる。
- (3) 競技用具、競技用靴について。
 - ① 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポールを除き主催者が用意したものを使用すること。
 - ② フィールド競技に使用するマーカーは、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、やり投では2個まで、それ以外の種目では1個使用できる。走高跳は助走路上に、その他の跳躍種目とやり投は助走路の外側に、サークルから行う競技ではサークルの直後に置く。
 - ③ 競技場は全天候舗装である。競技用靴のスパイクは、11本以内で長さ9ミリ以下とする。ただし、走高跳・やり投は12ミリ以下とする。
- (4) 競技者は、携帯電話・CD・MD・デジタルプレイヤー・ラジオ等を競技場内に持ち込むことはできない。
- (5) 競技場の中に商品名のついた衣類、バッグなどを持ち込むときは招集所で競技役員の点検・指示を受けること。
- (6) 競技開始時刻については、競技の進行上多少の変動がありうる。
- (7) トラック競技
 - ① トラック競技は、すべて写真判定装置を使用する。
 - ② 同クラスが複数組の場合、すべてタイムレース決勝とする。
 - ③ 同タイムの場合の順位は、同組で着差が無い場合、または組が異なる場合は、生年月日の早いものを上位とする。
 - ④ 短距離競走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も割り当てられたレーン(曲走路)に

沿って走ること。

- ⑤ スタートの合図は、英語(on your marks,set)で行う。
- ⑥ 1 回目の不正スタートの時は、不正スタートした競技者のレーンナンバー標識上に黄カードを立てて警告する。その後不正スタートした競技者はすべて失格とする。
- ⑦ 次の種目はクラス毎に制限時間を設け、この時間が過ぎた場合は、新しい周回に入らない。なお、複数のクラスをまとめて組とした場合は、長い方の制限時間を適用する。

3000m	M60～M90・W50～W80=18分
5000m	M55以下20分 W45以下21分
2000mSC	M60～M75・W75以下11分
3000mSC	M55以下13分
3000mW	M60～M90・W80以下25分
5000mW	M55以下35分

※競技進行上、800mで6～7分、1500mで10分を超える競技者の競技を中止する事もある。

- ⑧ 1500m競走、5000m競走、3000m競歩、5000m競歩は補助競技場で行う。
- ⑨ リレー種目について
 - ◎リレー登録者以外の競技者を走者とする場合、変更は本大会参加者より2名以内とする。なお、高齢者が低年齢層のクラスの走者として出場することができる。ただし個人種目にエントリーしてない競技者が出場することはできない。
 - ◎リレーチームの代表は、リレーオーダー用紙に必要事項を記入の上、招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出すること。リレーオーダー用紙は競技者係から受け取ること。
- ⑩ ハードル競技・障害物競走の種目別基準は、実施要領の別表2、3の通りとする。
- ⑪ 障害物競走では、障害物に手をかけて越えてもよいが、連続した動作でなければならない。障害物をよじ登れば失格となる。また、障害物の中間のバーまたはクロスバー等に足をかけて上がってはならない。

(8) 跳躍競技

- ① 試技順は全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中に他の競技に出場する者は、審判主任に申し出ること。その場合、トラック競技を優先しフィールド競技については本人希望による。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。
- ② 試技数
走幅跳、三段跳、立五段跳の試技数は各クラスのトップ8(同記録の者が複数ある場合はそのすべて)を決めるまでは3回とする。トップ8による4回目以降の試技数は1回とする。競技進行上、4回目の試技順もプログラム記載の番号順とする。
- ③ 順位の決め方
走高跳および棒高跳以外で同記録の場合は、2番目の記録で順位を決める。それでも決められない場合は3番目の記録で比較し、以下同様にして決める。それでも決められない場合は、生年月日で早い者を上位とする。
- ④ 走高跳、棒高跳のバーの上げ方の基準は、実施要項の別表4、5の通りとする。但しグランドコンディションや参加者の状況によっては跳躍審判長の判断により変更して実施することがある
- ⑤ 走高跳、棒高跳で最高位が同記録の場合ジャンプオフは実施しない。その場合の順位は生年月日で早い者を上位とする。
- ⑥ 走幅跳の踏切板の位置は、1m、2mとする。

- ⑦ 三段跳の踏切板の位置は、5m、7m、9m、11m、13mとする。競技者は、自分の申告した踏切位置で競技する。
- ⑧ 立ち五段跳の踏切板の位置は、男子 5m、7m、9m、11m、13m、女子 5m、7m、9m、11mとする。競技者は、自分の申告した踏切位置で競技する。
- ⑨ 立ち五段跳においては、踏切ラインに両足を揃えて立ち、片足で左右交互に 1 歩・2 歩・3 歩・4 歩跳躍し、5 歩目は両足を揃えて着地する。跳躍の瞬間に踏み切り線を踏んだり、足が地面から離れたり、足が動いてしまうと無効試技とする。

(9) 投てき競技

- ① 試技順は全競技についてプログラム記載の番号順とする。競技中に他の競技に出場する者は、審判主任に申し出ること。その場合、トラック競技を優先しフィールド競技については本人希望による。試技順を適宜変更するが、その試技中に失った試技を要求することはできない。
- ② 各クラスのトップ 8 (同記録の者が複数ある場合はそのすべて)を決めるまでは 3 回とする。トップ 8 による 4 回目以降の試技数は 1 回とする。競技進行上、4 回目の試技順もプログラム記載の番号順とする。
- ③ 順位の決め方は、同記録の場合は生年月日の早い者を上位とする。砲丸投同記録の場合は、2 番目・3 番目の記録で順位を決める、以下同様にして決められない場合は、生年月日の早い者を上位とする。
- ④ 円盤投、やり投の一部を補助競技場で行う。

9. その他の注意事項

(1) 抗議について

競技の異議申し立ては公式発表後 30 分以内に担当総務員へ申し出る。異議申し立てに対する審判長の裁定に納得できず上訴する場合は、所定の用紙に必要事項を記入の上、預託金 1 万円を添えなければならない。なお、この預託金は抗議が受け入れられなかった場合には没収される。

(2) 表彰について

- ① 各クラス・種目の 1 位から 3 位の入賞者には、賞状及びメダルを授与する。また、4 位から 6 位までの入賞者には賞状を授与する。
 - ② 1 位から 3 位の入賞者は、表彰式を行うので結果発表後、速やかに表彰場所に集合すること。
 - ③ 4 位から 6 位の入賞者は、賞状配布場所で賞状を引き渡すので、本人が受け取ること。代理人の場合は、その旨を申し出ること。
 - ④ 最優秀選手には、織田幹雄賞を授与する。
 - ⑤ 男子優秀選手には西田修平賞を、女子優秀選手には青木半治賞を授与する。
 - ⑥ 世界記録達成者には世界記録賞 (バッジ) を、日本記録達成者には日本記録賞 (バッジ) を授与する。
 - ⑦ 同一クラス 5 年連続出場者には、富士火災海上保険㈱から楯を贈呈する。
 - ⑧ 最も高いエイジグレードを出した選手 1 名にはエイジグレード大賞を、49 歳以下の者で最も高いエイジグレードを出した選手 1 名にヤングエイジグレード賞を、100 歳以上の参加者にはダイヤモンド賞を、それぞれ会長から授与する。
 - ⑨ 順位付けは、日本人 ((公社)日本マスターズ陸上競技連合登録者) と外国人(日本以外の国のマスターズ陸上競技組織への登録者)を一緒に行う。賞状、メダルはこの順位に基づいて授与する。
- (3) 記録の発表は、アナウンスと記録掲示板(正面玄関南側付近)への掲示による。各県への記録表配布は行わない。
- (4) 記録証を申し込んだ者は、記録証配布場所 (選手受付付近) で大会開催中に受け取ること。後日の送付しない。

(5) 応急処置

- ① 応急処置を必要とする事故が発生した場合、直ちに医務室で処置を行うが、それ以降の責任は負わない。
応急措置以降の治療費等の経費は本人負担とする。
 - ② 事故に起因して継続した治療を要することとなった場合は、大会実行委員会に連絡すること。
- (6) 所持品類は各自で保管すること。万一事故があっても主催者側は、一切の責任を負わない。
- (7) 主催者側は個人情報保護に関する法令を遵守し、(公財)日本陸上競技連盟個人情報保護方針に基づき取り扱う。なお、取得した個人情報は資格審査、プリントアウト編成、記者発表会、その他競技運営に必要な連絡などに利用する。

10. 地震発生時等には主催者の指示に従い行動すること。

11. 連絡事項

- (1) 棒高跳ポールの返送は10月27日18時までに手続きすること。
- (2) ごみ類は、すべて各自の責任で持ち帰ること。